

今月の重点活動

■だいこん ひるがの高原だいこん生産組合 栽培試験を支援

ひるがの高原だいこん生産組合では、若手生産者で構成する成年部が中心となり、新品種栽培や各種資材の試験に取り組んでいる。その中で、経営リスクを伴うものや小規模試験は、農業普及課が現地ほ場にて栽培管理をしている。

今年度、現地ほ場では、病虫害防除の体系の見直しのための農薬効果確認、資材高騰に対応するための低コスト肥料試験、肥料の残留と降雨の影響の関連性の調査、土壌の物理性改良による品質効果確認などの試験を行っている。

農業普及課では、8月から各試験の収穫調査を実施するとともに、今後もひるがの高原だいこん生産出荷組合が、持続可能な産地であり続けるように栽培体系に反映し、産地の維持発展を支援していく。



【試験ほ場の生育状況】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー 今年度の活動計画を協議

今年度の女性農業経営アドバイザー郡上地区としての活動計画を協議するため、6月27日に第1回地区全体会議が開催され、積極的な活動展開に向けて意見交換が行われた。

郡上地区が今年度開催の中濃ブロック全体研修会を担当することになっており、中濃ブロック研修会は11月上旬開催、郡上農業女子会は11月中旬開催の方向で協議した。今後は行事開催に向けて、具体的な内容等について協議を続ける。

農業普及課では、女性農業者の交流活性化を通じた担い手育成に向けて、継続して活動の支援を行う。



【活動協議の様子】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■水稻 小川営農組合の現地研修会開催

7月20日に明宝小川地区で小川営農組合（平成26年設立・26戸で構成）の現地研修会が開催された。組合員のほ場を視察し、関係機関から当面の管理作業の説明やいもち病・カメムシ防除などの啓発が行われた。

小川営農組合は郡上産米ブランド化研究会の会員であり、組合の米は「日出雲のめぐみ」と名付けられ、おにぎり店で利用されたり、道の駅等で販売されて、大変おいしいと人気がある。

農業普及課では、よりおいしいお米を目指す小川営農組合の活動を支援していく。



【現地研修会の様子】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 夏秋トマト部会目揃会が開催される

夏秋トマトの出荷も始まり、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、7月19日郡上総合庁舎において出荷目揃会を開催した。今年度の生育は平年よりやや早く、低段の着果もよく概ね順調に進んでおり、例年並みの出荷が見込まれている。

農業普及課からは、高温期に向けての栽培管理について説明を行った。今後は高値販売が見込める9月以降に多くの収穫量を確保できるよう、肥培管理や病虫害防除について指導を続けていく。



【出荷規格を確認】

■夏いちご 生産者のほ場巡回・栽培支援

ひるがの高原いちご組合は「すずあかね」という品種を栽培している。7月26日に、「すずあかね」を育成販売している業者、JA、農業普及課で生産ほ場を巡回した。

今年は定植初期の気温が高かったこと、その後も空梅雨で高温傾向だったことから株の樹勢が強く、出蕾が遅くれた生産者が多かった。

巡回先では、「すずあかね」の品種特性や適正な水管理、追肥時期などの情報を生産者に提供した。

出荷は7月上旬から順調に始まっており、盆ごろに出荷ピークが予想される。農業普及課では、高温期の栽培方法などの情報提供を行い、産地全体の高品質安定生産に向けて支援を行っている。



【ほ場巡回の様子】